

六本木男声合唱団ZIG-ZAG

三枝成彰  
レクイエム

曾野綾子のリブレットによる



2015年11月24日公演 ©Michiko Yamamoto

2026年10月22日(木) 18:30開場 19:00開演  
東京カテドラル聖マリア大聖堂

指揮:大友直人

ソプラノ:小林沙羅 テノール:笛田博昭

合唱:六本木男声合唱団ZIG-ZAG 管弦楽:シアターオーケストラトウキョウ

主催・お問合せ:六本木男声合唱団ZIG-ZAG事務局 03-3584-0649(平日10:00-18:00)

チケット料金:固定席 8,000円/パイプ椅子席 6,000円(全自由席)

チケットぴあWEB予約 <https://w.pia.jp/t/rokudan-zz/> (Pコード:326-042)

※未就学児はご入場いただけません。※都合により、出演者を変更する場合がございます。予めご了承ください。

※公演中止の場合を除き、チケットの払い戻しはできません。

# 私の「レクイエム」について

「レクイエム」を書くきっかけとなったのは、地球の裏側のあるバーである。1997年、大変親しくしていた故樋口廣太郎氏とブラジルでピンガと呼ばれる地酒を飲みながら、自分の葬儀の時どんな音楽を流してほしいかという話になった。樋口氏はご夫妻ともにカトリックの信仰をお持ちだったので、いきがり上「お亡くなりになったらレクイエムをお書きしましょう。」と言うと、「そのレクイエムは是非とも生きているうちに聞きたいね。」「……？」ということになった。日本語による「レクイエム」を書きたいという私の希望で、樋口氏から曾野綾子さんをご紹介いただき、この「レクイエム」の作曲に取りかかることになった。曾野さんは、この「レクイエム」が実際の葬儀で演奏されることを強く希望されたため、お書きになったリブレットは、平明で親しみやすいながらも、生の終わりにすべてを神の御手にゆだねる安らぎを感じさせるものとなった。数ある作曲家の「レクイエム」の中で、私が最も好きなのはフォーレの作品である。フォーレはどの「レクイエム」にも必ずある<ディエス・イレ（怒りの日）>を省いているため、全体に静謐な印象を与えてくれる。そして、死を悲しみに打ちひしがれた重苦しいものにすることなく、命が終わって神のみものへ向かう、永遠の至福と開放感を表現しているのだ。曾野さんの書かれた構成も期せずしてフォーレと同じようにディエス・イレが無く（最近の教会で行われる死者のためのミサはディエス・イレの無い構成となっているようだ。）ディエス・イレを含むセクエンツァの代わりに<四つの頌歌>が置かれている。また、他のレクイエムには無く、フォーレだけにあるイン・パラディズム（柩が墓地へと運ばれる時の音楽）の部分に、曾野さんは<アヴェマリア>と<葬送の歌>をお書きになった。典礼や構成など、作曲にあたって様々な面で金井久神父から貴重なアドバイスをいただいたのもありがたかった。

この作品の混声合唱版は1998年9月19日、東京交響楽団の定期演奏会にて大友直人氏によって初演された。

「死は生の完成であり、神と共にある真の生命のはじまり」とするカトリックの教えでは、死に日をディエス・ナターリス（ラテン語で<誕生の日>の意）と呼ぶとのこと。私の「レクイエム」初演の日が、新たな<ディエス・ナターリス>となったのではと思っている。

三枝成彰（1999年混声合唱版 第1版出版譜掲載の序文より抜粋）

## 出演者



©Rowland Kirishima

### 指揮:大友直人

桐朋学園在学中にNHK交響楽団を指揮してデビュー以来、日本のクラシック音楽界をリードし続けている。これまでに日本フィル正指揮者、大阪フィル専属指揮者、東京響常任指揮者、京都市響常任指揮者、群馬響音楽監督を歴任。現在東京響名誉客演指揮者、京都市響桂冠指揮者、琉球響音楽監督、瀬戸フィルハーモニー響ミュージックアドバイザー。東京文化会館の初代音楽監督として東京音楽コンクールの基盤を築いたほか、海外オーケストラからも度々客演として招かれている。小澤征爾、森正、秋山和慶、尾高忠明、岡部守弘らに学ぶ。NHK交響楽団指揮研究員時代にはサヴァリッシュ、ヴァント、ライトナー、プロムシュテット、シュタインらに学び、タンゴウッドミュージックセンターではバーンスタイン、プレヴィン、マルケヴィチらにも指導を受けた。大阪芸術大学教授、東邦音楽大学特任教授。京都市立芸術大学、洗足学園大学各客員教授。



©NIPPON COLUMBIA

### ソプラノ:小林沙羅

東京芸術大学及び同大学院修了。2010～15年ウィーンとローマにて研鑽を積む。2012年ブルガリア国立歌劇場『ジャンニ・スキッキ』及び『愛の妙薬』で欧州デビュー。三枝成彰作曲『KAMIKAZE』『狂おしき真夏の一日』、野田秀樹演出『フィガロの結婚』、藤原歌劇団『カルメン』、漫画『ガラスの仮面』より『紅天女』、岡田利規演出『夕鶴』、佐渡裕指揮『ドン・ジョヴァンニ』など話題作に続々出演。2027年1月には日本オペラ協会『天守物語』に出演予定。マラー「交響曲第4番」、フォーレ「レクイエム」等オーケストラのソリストとしても活躍。日本コロムビアより『日本の詩』他リリース。2026年4枚目のアルバムをリリース予定。11月29日にはデビュー20周年記念コンサートを開催予定。第27回出光音楽賞、第20回ホテルオークラ賞受賞。日本声楽アカデミー会員。藤原歌劇団団員。大阪芸術大学准教授。



©Naohisa Izawa

### テノール:笛田博昭

名古屋芸術大学及び同大学院修了。第37回イタリア声楽コンクールソ・イタリア大使杯受賞。第9回マダム・パタフライ世界コンクール及び第50回日伊声楽コンクール第1位。第20回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。2012年フェッラーラ国際コンクール第1位、その際にフェッラーラ歌劇場にて『イル・トロヴァトーレ』でイタリアデビューを果たす。日生劇場・藤原歌劇団共同制作公演『ノルマ』、2023年パレルモ・マッシモ歌劇場公演では、急遽代役として『ラ・ボエーム』に出演し鳴り止まぬ大喝采を浴びた。イタリアの輝きをもつ豊かでドラマティックな声と、日本人離れしたスタイリッシュな歌唱フォームは比類なく、日本屈指のプリモテノールとしての地位は揺るぎない。2017年よりNHKニューイヤーオペラコンサートに出演。藤原歌劇団団員。新潟県湯沢町特別観光大使。



L'Auditori, Barcelona, 2025

### 合唱:六本木男声合唱団ZIG-ZAG

1999年に特別編成された「元美少年合唱団」が母体。これまでウィーン、ベルリン、ハバナ、ホノルル、サン・パウロ、パリ、ミラノ、ジュネーヴ、サンクト・ペテルブルグ、ローマ、パチカンなど世界15都市の他、2018年にカーネギーホール、2025年にはバルセロナのローディトリ及びサグラダ・ファミリアで公演を行った。国内ではサントリーホールでの定期公演のほか、東京マラソンでは初回から2019年まで国歌合唱を行う。2027年6月にはホノルルでハワイ交響楽団と共演予定。三枝成彰団長のもと、政治家、企業家、医師、弁護士、文化や芸術それぞれの分野では一流でも、歌い手としてはアマチュアの30代から90代の100名を越える団員が集い、音楽が人生にもたらす喜びを享受している。三枝成彰「レクイエム」の東京カテドラル聖マリア大聖堂での演奏は、2015年以来11年ぶりとなる。



©Jin Kimoto

### 管弦楽:シアター オーケストラトウキョウ

2005年、バレエを中心とした“劇場”を主な活動の場として編成されたオーケストラとして創立。同年、熊川哲也Kバレエカンパニー公演での演奏が高く評価され、2006年よりKバレエカンパニー（現Kバレエトウキョウ）のすべての公演の演奏を行い、バレエ団を代表する新作プロダクションにおいて世界初演での演奏を務めている。2007年、日本でのバレエ音楽指揮者の第一人者でバレエ音楽に最も造詣の深い福田一雄が音楽監督に就任（現、名誉音楽監督）。劇場音楽への深い理解と意欲的な取り組みは注目を集め、その作品に寄り添った演奏に高く評価を得ている。現在は国内を代表するバレエ団公演、海外バレエ団の招聘公演を中心にオペラ、ミュージカル、オーケストラコンサート、室内楽など様々なシーンで演奏活動を行なっている。2019年9月、指揮者の井田勝大が音楽監督に就任。